

令和4年度の市の予算が決まりました。いつもの暮らしに「しあわせ」を感じるまちの実現に向けた「新しい豊かさ」の創造を推進する予算として位置付けた本年度予算についてお知らせします。

内訳について単位未満を四捨五入しているため合計が合わないことがあります。

オール甲賀で未来につなぐ

「新しい豊かさ」へ未来への扉予算

甲賀市長 岩永裕貴

令和4年度一般会計予算は、いつもの暮らしに「しあわせ」を感じるまちの実現に向け、変えるべきものを守るべきものを明確に選択しながら、「新しい豊かさ」の創造により、未来への扉を開く重要な年度であることから、「オール甲賀で未来につなぐ「新しい豊かさ」へ未来への扉予算」としました。

新型コロナウイルス感染症から皆様の健康と暮らしを守ることを最優先に、感染の拡大防止と経済活動の両立を図りながら、中長期的な展望を持ち「子育て・教育」、「地域経済」、「福祉・介護」を柱に施策のさらなる展開を図ってまいります。

また、第72回全国植樹祭の開催を契機に、豊かな森林資源を活かした脱炭素社会づくりに取り組む「環境元年」と位置づけるほか、総合計画の目標人口の達成に向けた移住定住の促進、デジタル技術の活用による地域課題の解決など将来に向け今取り組みをすすめるべき施策を推進してまいりますので、一層のご支援とご協力をお願いいたします。

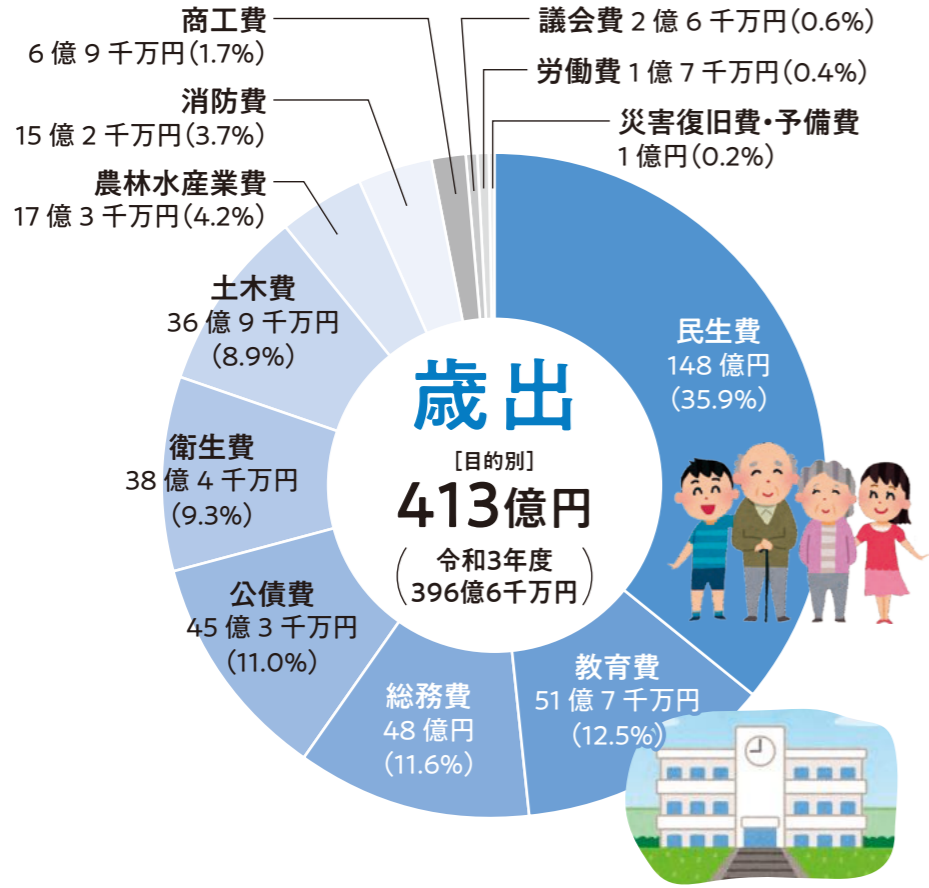
一般会計(市の基本となる会計)

一般会計予算総額は、413億円で、令和3年度当初予算から16億4千万円増加しました。カーボンニュートラルや移住定住、子育て・教育環境の整備、地域デジタル社会の推進等のための施策を実施するとともに、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策や地域経済活性化対策に関する経費を計上したことによるものです。

		予算額			
		4年度	3年度	前年度比較	
特別会計	国民健康保険	89億7,900万円	84億9,600万円	+4億8,300万円	
	後期高齢者医療	22億6,100万円	20億6,800万円	+1億9,300万円	
	介護保険	82億1,400万円	81億7,900万円	+3,500万円	
	野洲川基幹水利施設管理事業	8,113万円	4,735万円	+3,379万円	
	小計	195億3,513万円	187億9,035万円	+7億4,479万円	
企業会計	病院事業	収益的支出	7億9,985万円	8億2,808万円	▲2,823万円
		資本的支出	6,755万円	1億8,769万円	▲1億2,014万円
	水道事業	収益的支出	27億500万円	27億2,800万円	▲2,300万円
		資本的支出	15億8,544万円	15億3,892万円	+4,652万円
	診療所事業	収益的支出	2億4,175万円	2億3,430万円	+745万円
		資本的支出	1,578万円	2,299万円	▲721万円
	介護老人保健施設事業	収益的支出	3億5,685万円	3億2,900万円	+2,785万円
		資本的支出	1,995万円	2,018万円	▲23万円
	下水道事業	収益的支出	36億1,695万円	35億8,759万円	+2,936万円
		資本的支出	30億1,603万円	30億533万円	+1,070万円
	小計		124億2,515万円	124億8,208万円	▲5,694万円
	合計		319億6,028万円	312億7,243万円	+6億8,785万円

特別会計・企業会計

特定の事業を行うための4つの「特別会計」と上下水道や病院などの収益事業を行う5つの「企業会計」に分類し、運営しています。



歳出

福祉、教育のための施策に重点

子どもや高齢者、障がい者などの福祉のための費用である民生費の割合が最も多く歳出全体の35.9%を占めています。

また、教育費は、校舎の長寿命化改良事業などの合併特例債事業*の影響により大幅に増加(昨年度から9億6千万円の増)しています。

*合併特例事業債は、元利償還金の7割が普通交付税により措置される有利な財源です。

歳入

景気の持ち直しを見込み市税が増加

歳入予算のうち、市税は140億2千万円(昨年度から9億3千万円の増)で歳入全体の34.0%を占めています。

また、依存財源は国県支出金や地方交付税などが増加する一方で、臨時財政対策債の減により市債については減少(昨年度から11億4千万円の減)しています。

- 自主財源** 市が自主的に収入することができるもの
- 依存財源** 国や県の決定により、市の収入となるもの
市債も依存財源に該当

